

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.524

日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2016年5月18日（水）

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6



米軍ヘリ、横浜ノース・ドックで特殊訓練

日米地位協定を逸脱

横浜港の真ん中、北面に位置する米軍基地ノース・ドックで先月25日と29日、米軍横田基地の米軍ヘリコプターが日本側に通知せず特殊訓練が行いました。訓練は、特殊任務班によるもので、新たにヘリの機体に装備したホイスト(吊り上げ装置)を使った訓練です。

新聞報道によれば、夜間は暗視ゴーグルも用いて難易度が高く、高度な技術と判断力が必要で、かなりの危険が伴うものとされています。

ノース・ドックは米軍物資の陸揚げと保管をしています。

同基地での米軍の訓練は、確認できる限りこれまで一度も実施さ



横浜ノース・ドックでつり上げ訓練をする米空軍第459空輸中隊のヘリコプターと兵士4月29日、リムピースホームのページより

れたことはなく、周辺海域を含む上空に訓練空域の設定もされていません。このため、ここでの訓練は日米地位協定に抵触する可能性があります。(2頁に続く)

無料法律相談

6/2・16(木)

予約制 (大貫)

090-5311-1879

ノース・ドック返還運動を

(1頁より)

ノース・ドックは、みなとみらい21地区の対岸にある瑞穂ふ頭とその水域の計約63万平方メートルの港湾施設で、陸軍、海軍、海兵隊、空軍の米全4軍の活用する総合的な兵站支援・交通管理・兵員物資輸送中継基地です。

戦後71年間、横浜港の重要な位置に居座り続けています。そのため横浜港と都心臨海都の振興と発展を邪魔しています。

今回のノース・ドックでの特殊訓練は、近年、米の世界戦略をアジア太平洋地域に移すリバランス政策の要として横田基地の機能強化が進んでいることや、装備の高度化が背景にあります。横浜で訓練した米軍ヘリUH1へのホイスト装置配備もその一環とされています。



ランドマークタワー展望台から見たノース・ドック。赤い船が泊まっています。(党市議団撮影)

今回の訓練を黙認すれば、ノース・ドックの機能強化と居座りを許すこととなります。横浜市は毎年市内基地返還要請を政府に行っていますが、それでは足りません。今こそ、市長が先頭に立って「市民の財産、ノース・ドックを返せ」とノース・ドック返還の市民運動の大運動が必要です。

民主主義の敵は 安倍晋三



もう黙ってられない!

青葉区世直しレンジャーズのKさんが10日、国民平和大行進・網の目行進に「民主主義の敵 安倍晋三」と自作のイラスト(左)を掲げて参加された。Kさん、友人のYさんらと一緒に勝手連を作って、昨年、知事選で岡本さん、市議選で私・大貫を応援。そして、「戦争法廃止、安倍政治を許すな」と世直しレンジャーズを結成。そうです。このような市民の自発的運動・活動こそが政治を変える力です。

ちょっと法律の話とか(20)

寄稿

イギリスのメディア規制の事例

弁護士 まなぎいすたろう
馬奈木 巖太郎

最近、メディアへの“規制”や“圧力”がしばしば語られています。著名なキャスターが降板し、大臣が電波停止に言及することもありました。

過去には、メディア規制の事例がいくつもあります。イギリスの例を紹介しましょう。

1988年、北アイルランド紛争に手を焼いていたサッチャー政権は、IRA（アイルランド共和軍。アイルランド独立闘争を行ってきた武装組織）やシン・フェイン党など、特定団体の代表者らの会見の放送を禁止する措置をとりました。BBCについては免許協定書、商業放送局については放送法に基づく措置でした。イギリス史上初の措置であり、野党の労働党は、「正しい判断を得る機会を奪い、言論の自由への攻撃だ」と批判しました。

私は、1992年にロンドンでホームステイをしていたことから、アダムス党首の会見が吹き替え放送で流されているのを何度か目にすることがありました。当時、高校生だった私は、英語で話しているに違いない人物の会見が吹き替えとなっていることに違和感を覚えながらも、敵対勢力の肉声を聞かせることが不適切



だと政権や放送局は考えているのだろうかくらいにしか思い至りませんでした。

しかし、この吹き替えこそ、放送局の“抵抗”でした。つまり、禁止措置は「直接放送してはならない」というものでした。そこで、放送局側は「間接なら放送してもよい」と解釈し、アダムス党首の声に近い声優で吹き替え放送を続けたのでした。

この措置は、1994年に和平合意が成立するまで6年間続きますが、吹き替えという変則的放送は、かえって政府の言論統制を強く印象づける結果に終わったといわれています。

メディアは誰のためのものであるべきか、言論の自由は誰との関係で保障されなければならないのか——この事例からも、多くの示唆が得られるのではないのでしょうか。

(クイズの答え：真上からみた日本丸)

オバマ大統領の広島訪問を後押した

核兵器廃絶を求める運動の広がり

心配された天気は予想を外れ、時折、青空がのぞいた10日、今年も「核兵器のない平和で公正な世界を」掲げ国民平和大行進・網の目行進が都筑・青葉・緑区を縦断しました。

国民平和大行進は、“ノーモア・ヒロシマ！ノーモア・ナガサキ！” “核兵器のない世界を”と核兵器廃絶を訴えて、文字通り全国を歩く行進です。1958年6月に、被爆地広島から東京までの最初の平和行進が行われ、参加者はのべ100万人に。以来この半世紀以上、雨の日も風の日も毎年休まず続けられ、いまでは毎年10万人が参加する国民的行動となっています。

オバマ米大統領が現職大統領として初めて被爆地・広島を訪問すると決めた背景には、原爆投下を巡る国内の世論の変化と、核兵器の非人道性を告発して廃絶を求め

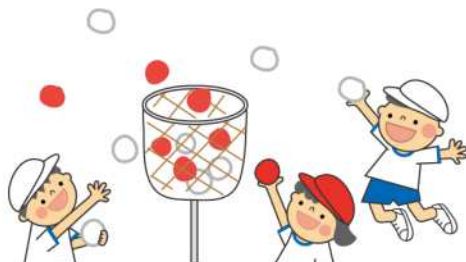


都筑・青葉・緑区網の目行進
＝10日、田園都市線江田駅前

る運動の発展があります。

平和大行進・網の目行進や、毎月6日と9日に行われる核兵器全面禁止のアピール署名集めなど、横浜北部原水協のみなさんをはじめとする市民の方々の地道な粘り強い活動がオバマ大統領の広島訪問の環境づくりを作り、後押ししたことは間違いありません。

今後も核兵器廃絶まで粘り強く頑張りましょう。



スポーツの春？
メダカの独り言 秋に行われていた小・中学校の運動会が、春開催に変わりつつある。理由は、2学期制が導入され秋に行事が集中したことや、猛暑日をさけるためだとか。秋の風物詩でスポーツをあげる人が減るかも。(K)